

平成24年6月8日  
国土交通省九州地方整備局  
筑後川河川事務所  
筑後川ダム統合管理事務所

## 松原ダムの弾力的管理試験の実施について

農業用水の取水が増加する6月期は筑後川の流量が減少するため、河川環境への影響が懸念されます。

そこで6月11日から6月20日の期間において、松原ダムの貯留水（約600万m<sup>3</sup>予定）を筑後川へ補給することにより河川流況改善を図る、松原ダムの弾力的管理試験を実施します。

### 問い合わせ先

国土交通省九州地方整備局 筑後川河川事務所  
TEL0942-33-9131（代表） 0942-33-9185(管理第一直通)  
管理第一課長 十時信忠  
国土交通省九州地方整備局 筑後川ダム統合管理事務所  
TEL0942-39-6651（代表）  
管理課長 平井新太郎

※筑後川河川事務所ホームページ

<http://www.qsr.mlit.go.jp/chikugo/>

筑後川ダム統合管理事務所ホームページ

<http://www.qsr.mlit.go.jp/toukan/>

# 筑後川の河川環境改善を目指して

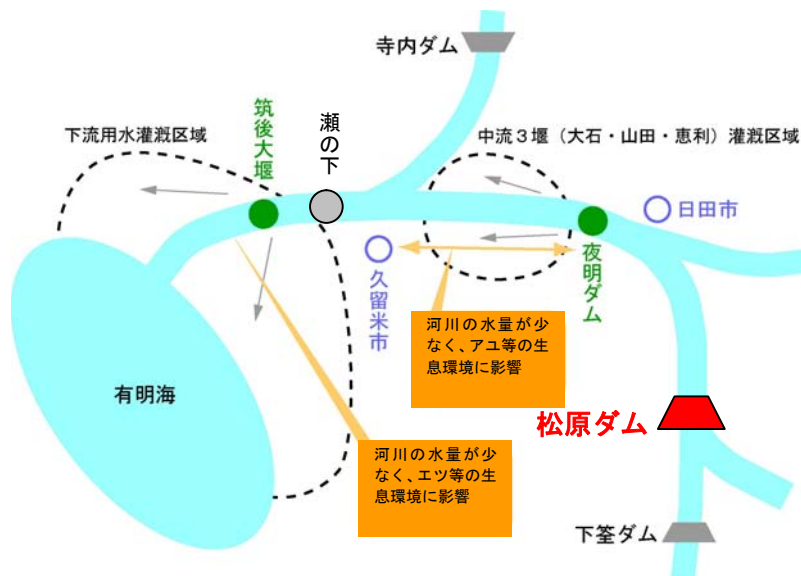
## ～松原ダム弾力的管理試験の取り組み～

### 弾力的管理とは？

ダムの弾力的管理とは、梅雨期等に洪水を調節するための容量の一部に水を貯留し、その水を使って、ダム下流の河川環境の保全に役立てるものです。

### 松原ダム下流の河川環境の課題

松原ダム下流では、6月期に広域的かつ多くの水利用が行われており、河川流況が悪化し河川環境に影響を与える状況が生じています。



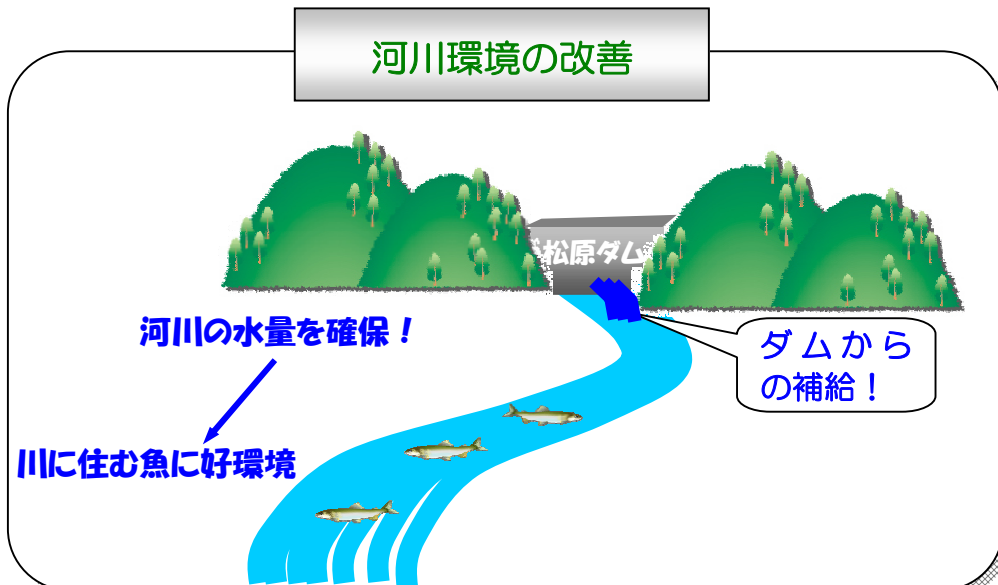
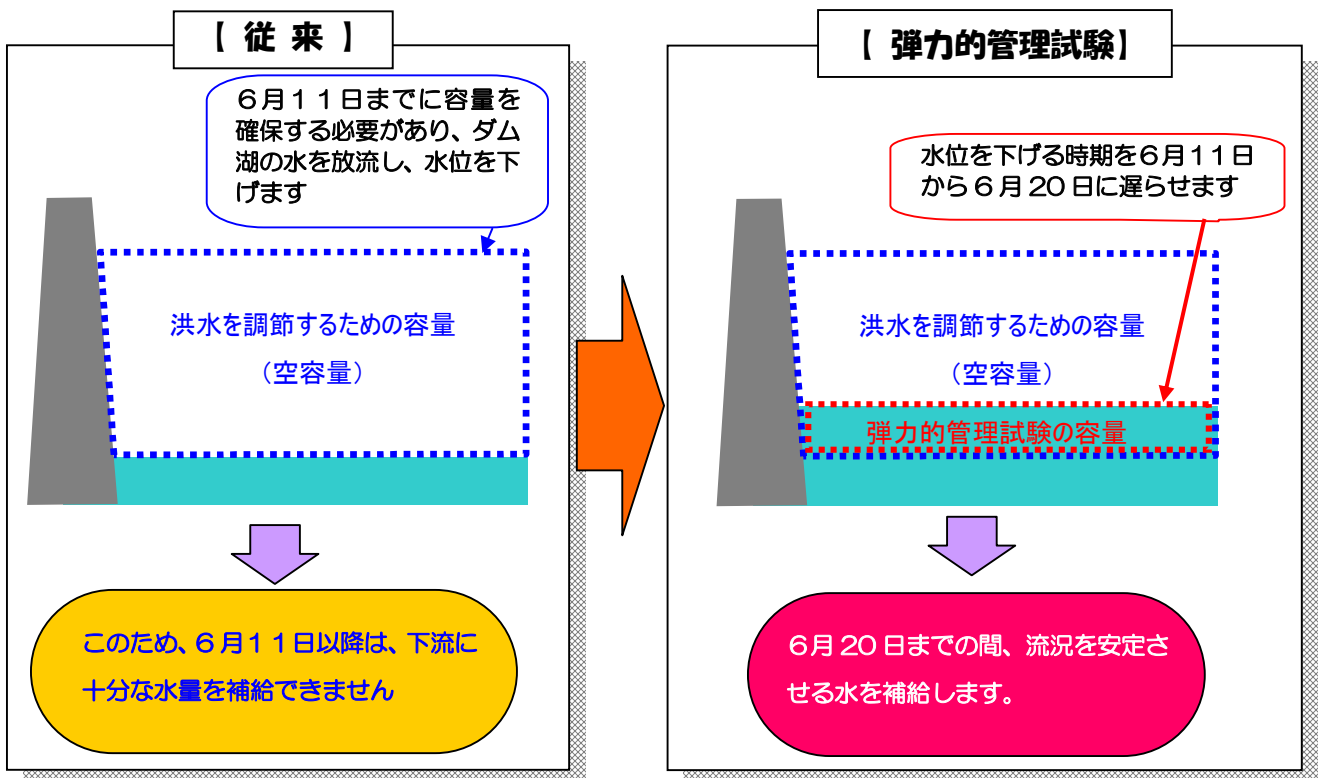
6月中旬～下旬にかけての松原ダム下流の状況



これらの課題を解消するため、試行的に弾力的管理試験を行っています

## 松原ダムにおける弾力的管理試験

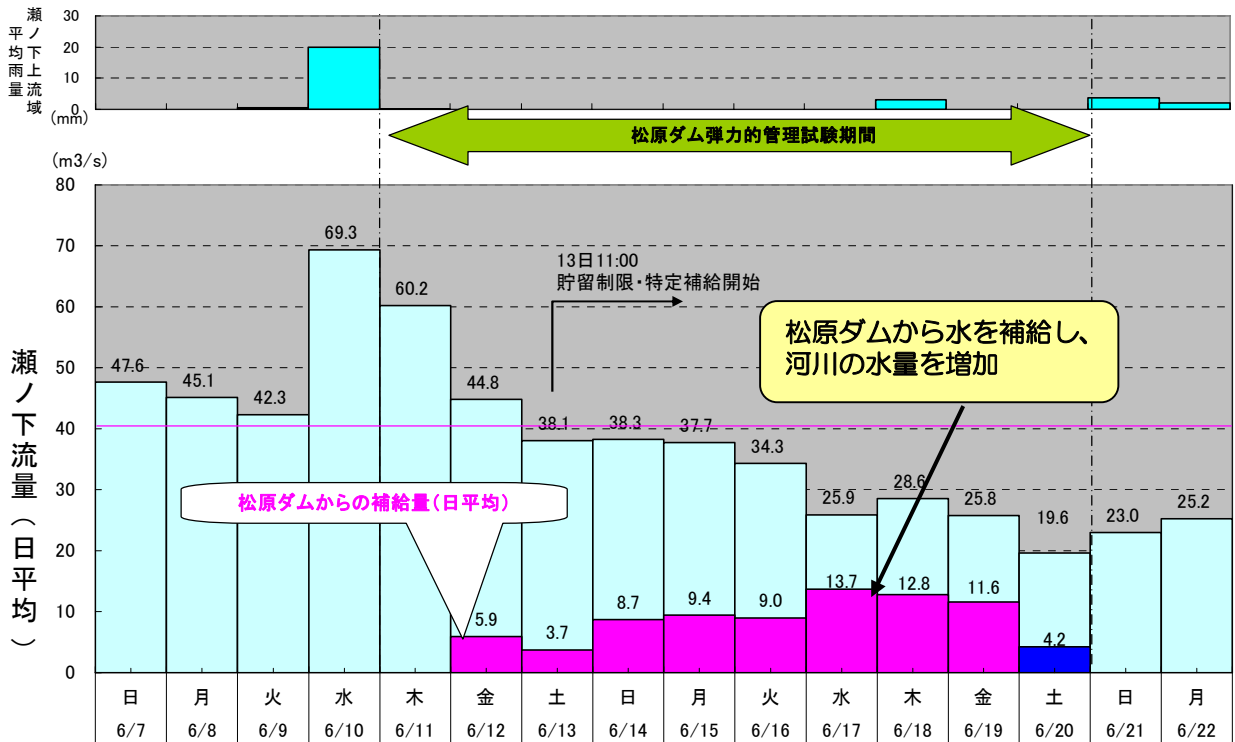
洪水調節を目的に持つ松原ダムにおいては、洪水期を迎えるにあたって洪水を調節するための容量（あきようりょう空容量）を確保するため貯水位を低下させます。試験は、「空容量となっている洪水調節容量の一部」に貯めた水を活用して下流域の環境の保全に努めます。



効果その1：下流河川の流況改善に役立ちました〔過去の事例〕

平成21年度では、農業用水の取水が集中した6月13日から19日において、松原ダムから活用放流を行ったことにより、河川の水量を保つことができ河川環境が改善されました。

平成21年度松原ダムの弾力的管理試験(6月11日～6月20日)効果試算図



＜山田堰の状況＞  
松原ダムからの補給により、堰全面に水が行き渡っています。



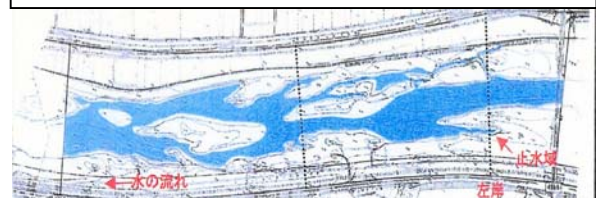
効果 その2：  
流量の増加により生物に適した環境が増えました

活用放流を行ったことにより、瀬切れ（瀬が干出し、水面の連続性が途絶えること）がなくなり、水面の連続性が保たれるとともに、中州やワンド（本川と繋がっている溜まり）が保持され、生物の生息や生育に適した環境が保たれます。

補給前 流量 10.97m³/s (平成13年) 河口からの距離 49.40km



補給後 流量 27.50m³/s (平成13年) 河口からの距離 49.40km



## 弾力的管理試験では以下の点に注意して行っています

弾力的管理は、下流河川的环境改善に大きな効果があることが分かります。しかしながら、本格的な運用を行っていくためには、以下に示すような課題をクリアする必要があります。

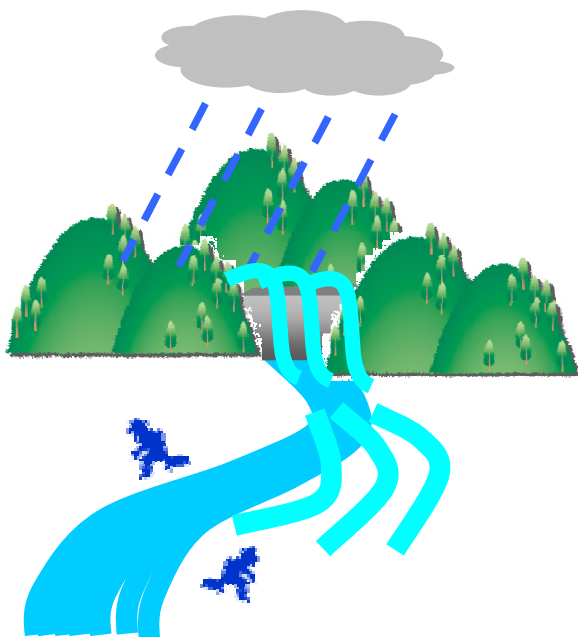
そこで引き続き弾力的管理試験を試行しながら各種データを観測・分析を行い、より安全なダム操作が行えるよう、調査・検討を行っていきます。

①洪水の発生が予想される場合は、洪水が来る前に貯留された水を事前に放流しなければなりません。

②事前の放流においては、ダム下流の河川利用者の安全が確保されなければなりません。

③管理体制の整備が必要です。また、関係者の理解と協力が必要です。

水位が高いままだと…



降った雨を十分に貯めることができず、危険！

雨が降ることを予測して徐々に水位を下げる！



下流での河川利用者の安全が確保できるように徐々に放流します！

国土交通省 九州地方整備局

筑後川河川事務所

筑後川ダム統合管理事務所

TEL:0942-33-9131(代表)

TEL:0942-39-6651(代表)

## 【記者発表資料】

### 記録的な少雨による河川の流量減少に対する取り組みについて ～松原ダムの弾力的管理試験の実施及び大山ダムの試験湛水の運用～

筑後川流域では、5月の月間降水量が約52mmと平年の約26%しか降っておらず、更に6月に入ってもまとまった雨も無いため、筑後川の河川の流量も減少しております。

今週末からしろかき・田植えが本格化することも重なり、これからの降雨次第では河川の流量が急激に減少し、河川環境の悪化等が懸念されます。

このため、松原ダムを活用した、弾力的管理試験により流量の安定に努める予定としておりますが(6月8日記者発表済み)、記録的な少雨となっていること及び現在建設中の大山ダム(試験湛水中)に貯留した水があることを踏まえ、それらを併せて活用し、少しでも河川環境等の保全に努めることとしましたのでお知らせ致します。

※5月における平年降水量:204mm(昭和56年～平成22年の30年平均)

※今後の降雨次第によっては、弾力的管理試験を中止することもあります

【記者発表先】久留米市・日田市・佐賀市の各記者クラブ

問い合わせ先:

国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所  
TEL:0942-33-9131(代表) 0942-33-9185(管理第一課直通)  
管理第一課長 十時 信忠

国土交通省九州地方整備局筑後川ダム統合管理事務所  
TEL:0942-39-6651(代表)  
管理課長 平井 新太郎

(独)水資源機構筑後川局  
TEL:0942-34-7001(代表)  
企画調整課長 西川 修

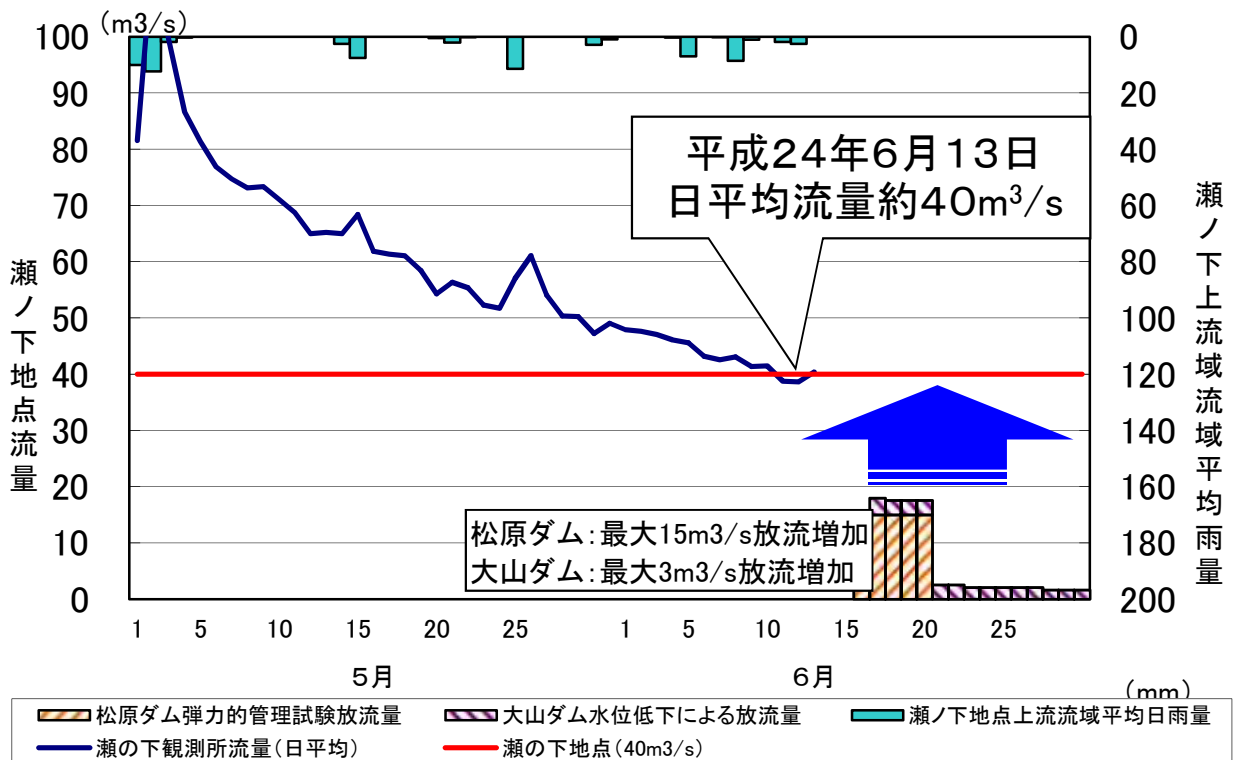
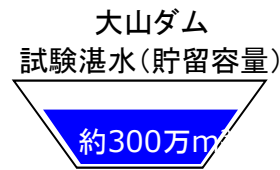
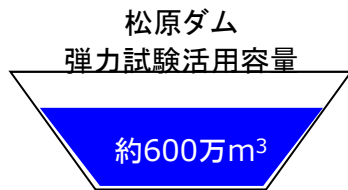


【別添資料】



平成24年6月13日0時時点

※ダム貯留状況イメージ



※放流パターンや放流量については、河川流量によって変更があります。